支援者という立場のプロの資質として……

ある地方都市で、「障害児（ 者）への専門的支援のあり方」のテーマで講演を依頼され、話す機会を得た。

支援者という立場のプロの資質として、
「人間相手（ 支援等） の仕事には、ゴー ルはない。
係わるだけでなく、係わり合い続けること。
知識と技術に裏打ちされた知恵をいかに働かせるかのチャレンジ精神と、自らを検証する勇気が必要」なことを、障害児・者や家族の現況事例を交えながら、話した。

そして、最後に、「『専門的支援』というようなものはなく、『生きようとする生命を互いに輔け合いながら、生きるとはどういうことかを問い続ける活動』が支援への観点と理解すれば、誰もがその時から『専門的支援者』に成り得る」ことを語りかけて締め括くった。

後刻、主催側から次のようなメールをいただいた。
「今回のお話は本当に心に響く内容でした。
支援者には厳しく聞こえるエールでしたが、日々の仕事、生活を振り返る機会となりました。ありがとうございました。
参加者の方からは、また先生のお話を聞きたいとの声を頂いております。」

また、ある聴講していた支援者からは、
「久しぶりに先生とお話できてうれしかったです。　お母さん方からのご希望として、先生にお出でいただく機会を企画したいと考えています。
その際は是非よろしくお願いします。」とのメールをいただいた。

偶然同じ日の夜に、遠くにいる昔の仕事仲間の後輩二人から、次のようなメール。
一人からは、「現場にいると、たまに聞きたくなるんですよ、阿部節が・・・。
正直、一緒に活動させていただいているときは思いませんでしたよ・・・(笑)。
激変する中で、自分はどうしたらいいのか悩む毎日です。
ＳＯＳの時しかメールせずすみません・・・・。」

もう一人からは、「療養介助員の増えるなか、生き残りをかけて大変な毎日です。
ご無沙汰しているメールで図々しいですが、専門職の方向性について、お考えをお聞きできたらと、思います。」

主催者側のメールを引用しつつ、「つまり、自分は子どもの存在そのものの側からの問題点を代弁し、受講の支援者に語りかけただけです。」と、謙虚（？）に返信した(^_-)。

いずれにしても、阿部節（？）のファンがいてくれるなんて嬉しいし、元気を貰えちゃう(*^_^*)

阿部幸泰　　（2007 年 2 月 28 日　記）